

★★★不思議な形 五稜郭★★★

新井 若菜

目次 A 全体の概要

1. 場所（北海道の支庁・渡島半島・五稜郭の位置） 2. 形と大きさ(城塞都市・龍岡城)
B 歴史 1. 箱館開港と奉行の設置 2. 築造へ 3. 箱館戦争 4. 復元整備
C 構造 1. 稜堡 2. 半月堡 3. 土壘・石垣 4. 建築物(土蔵・箱館奉行所)
D ガイド状況
E おわりに

A 全体の概要

1. 場所(支庁) 北海道=14支庁(振興局)、近隣とまとめて7支庁エリア



★五稜郭の場所

五稜郭は函館山から約 6 km 離れた函館市のほぼ中央となる場所にあります。この場所はちょうど浅いすり鉢の底のように低くなっている所で、周辺は箱館が開港された時たくさんのが「ネコヤナギ」が生えていました。このため別名「柳野」(やなぎの)と呼ばれており、当時は至る所が水はけの悪い湿地でした。



2. 形と大きさ

稜堡(りょうほ)と呼ばれる5つの角があり、星形の五角形。この上に土塁また石垣も積まれ、その周りには水堀があります。星形の土塁の南西側には、半月堡(はんげつぼ: または馬出塁)と呼ばれる三角形状の土塁があり、その周りもまた水堀となっています。五稜郭のような珍しい形は、約 500 年前の 16 世紀頃のヨーロッパで考えられ、その後欧州各地に造られた「城塞都市」をヒントにしたもので。そこからこの形を「西洋式土塁」と呼んでいます。

このような形の五稜郭は、日本では函館市と長野県佐久市の龍岡(たつおか)城の2か所だけとなっています。



五稜郭 初度設計図



城塞都市
パルマノーヴァ (イタリア)



城塞都市
ブルダング要塞 (オランダ)



長野県佐久市の龍岡城

★五稜郭主要データ

- ・史跡指定範囲の面積 約 251, 000 m²(東京ドーム5個分)
- ・史跡指定地の周囲 3km
- ・堀の周囲 1.8km
- ・堀の幅 最大30m
- ・堀の深さ 4~5m
- ・土塁の高さ 5~7m
- ・土塁の厚さ 27~30m(底部)
- ・直径 500m(東西 500m×南北 500m)
- ・別称 「亀田御役所土塁」「柳野城」

B 歴史

★略年表

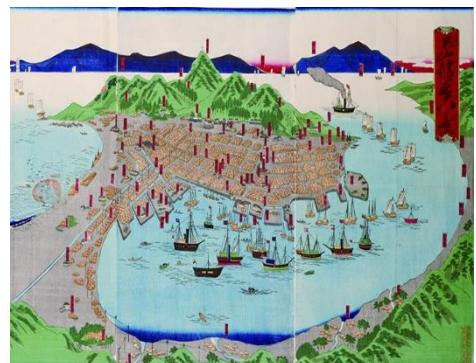
1854 年 (安政 1 年)	3 月 日米和親条約締結、箱館の開港決定 4 月 アメリカ艦隊が箱館に来航 6 月 箱館奉行を設置
1855 年 (安政 2 年)	3 月 函館港を和親開港
1856 年 (安政 3 年)	8 月 箱館諸術調所を設置
1857 年 (安政 4 年)	6 月 五稜郭の建設工事着工
1864 年 (元治 1 年)	6 月 五稜郭へ奉行所を移転
1867 年 (慶応 3 年)	10 月 大政奉還
1868 年 (慶応 4 年)	4 月 新政府が五稜郭に箱館府を設置 8 月 19 日 旧幕府艦隊、品川沖を脱走 9 月 明治に改元
1868 年 (明治 1 年)	10 月 20 日 旧幕府軍、鷺ノ木に到着 10 月 26 日 旧幕府軍、五稜郭を占領 11 月 5 日 旧幕府軍、松前を占領 12 月 15 日 旧幕府軍、蝦夷地平定
1869 年 (明治 2 年)	3 月 9 日 新政府軍艦隊、品川沖を出航 4 月 9 日 新政府軍、乙部へ上陸開始 4 月 17 日 新政府軍、松前を奪回 5 月 11 日 新政府軍、箱館を総攻撃 5 月 18 日 旧幕府軍降伏。五稜郭開城
1870 年 (明治 3 年)	2 月 五稜郭の堀で天然氷を探氷
1871 年 (明治 4 年)	4 月 五稜郭内の建物を解体
1914 年 (大正 3 年)	6 月 五稜郭を公園として開放
1952 年 (昭和 27 年)	3 月 五稜郭を特別史跡に指定



1. 箱館開港と奉行の設置

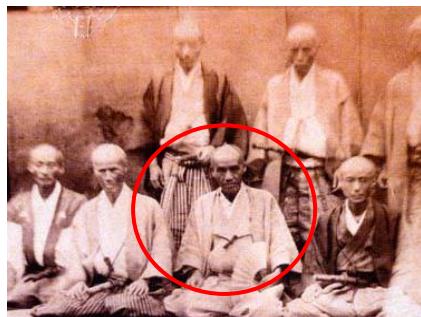
嘉永6年(1853)ペリー提督率いるアメリカ艦隊が来航、翌年徳川幕府は日米和親条約を結び、下田と箱館の2つの港の開港を決定しました。(「箱館」は明治2年(1869)から「函館」という文字に改称)

開港に伴い、函館山の麓に奉行所(役所)を開くこととなります。箱館奉行である堀織部正利熙(ほりおりべのしょう としひろ:後に外国奉行に任命、横浜港開港にも尽力)は箱館の地が海から攻撃を受けるとひとたまりもないことから、箱館奉行所を隣町・亀田の地へ新築・移転することを上申、これが五稜郭の築造へつながっていきます。



木版画「函館真景」

★移転先＝亀田村にある柳野と呼ばれる緩やかな丘陵地。港湾から約 3km ほど離れた場所で、これは当時の大砲の射程距離から外れていました。軍事的に優れた立地にありながら、川から清流を引き込むことができ、さらに周囲にある泥沼や曲がりくねった道が防衛上の利点になると判断されたからでした。



ほりおりべのしょう としひろ
堀織部正利熙

五稜郭と共に建設された弁天台場



箱館山から弁天台場を望む

2. 築造へ

新しい奉行所の設計は諸術調所(しょじゅつしらべどころ)教授役の蘭学者、武田斐三郎成章(たけだあやさぶろうなりあき:伊予大洲藩士)が行うことになりました。安政2年(1855)に箱館に来たフランス軍艦コンスタンティーン号の軍人から、ヨーロッパの築城術が書かれた本を贈呈され、五稜郭築造の参考にしたと言われています。

安政4年(1857)春から「亀田御役所土墨」(五稜郭を造る時の最初の名)の工事が始められ、約7年をかけて元治元年(1864)に完成。箱館山の麓にあった奉行所から五稜郭の新役所へ引っ越し、蝦夷地の開拓や外国船の取り締まり等箱館奉行所としての仕事が始まりました。しかしながら、この3年後の慶応3年(1867)に大政奉還となり、徳川幕府が終わりを告げます。翌年明治新政府の総督へ事務引き継ぎが行われ、徳川幕府の奉行所は箱館裁判所・箱館府へと移り変わることになりました。



蘭学者 武田斐三郎

- ・1854 年(安政元年) 3月 日米和親条約締結
- 6月 箱館奉行を設置
- ・1855 年(安政 2 年) 7月 フランス軍艦
　　コンスタンティーン号入港
- ・1857 年(安政 4 年) 6月 五稜郭の建設工事着工
(亀田御役所土墨)
- ・1864 年(元治元年) 6月 完成、奉行所を移転
　　しかし…! ↓
- ・1867 年(慶応 3 年)10月 大政奉還、
　　翌年箱館裁判所・箱館府へと改称

3. 箱館戦争

明治元年(1868)8月、品川沖を脱走した榎本武揚(えのもとたけあき)が率いる旧幕府脱走軍艦隊が、10月20日に蝦夷地へ到着、戊辰戦争最後の戦いとなる箱館戦争が開始されました。

上陸した旧幕府脱走軍は、その6日後には五稜郭を占拠することになりました。この後12月15日に、榎本武揚を総裁とする蝦夷地仮政権が樹立。しかし、翌年4月新政府軍の反撃が開始され、前年に最大の戦力だった軍艦「開陽丸」を失った脱走軍は、次第に形勢不利となります。5月11日には明治新政府軍が箱館総攻撃を行い、その結果、脱走軍の最大の砦であった弁天岬台場が壊滅状態となり、その救援に向かった新撰組副長、土方歳三が銃弾に撃たれて戦死しました。

この時の五稜郭からは、土壘上の24ポンドカノン砲を箱館港に向けて発射し脱走軍の応援を行っていますが、ほとんどの砲弾は港まで届かず、その効果は無いまま脱走軍の敗北は決定的なものとなりました。五稜郭からの砲撃は全く港湾まで届かなかったのに比べ、軍艦「甲鉄」の大砲は約4km以上砲弾が届くような強力なものであったため、五稜郭内の奉行所庁舎の太鼓櫓に正確に命中し、数人の死傷者が出了ることが記録されています。

その後、5月18日には榎本武揚以下の脱走軍が降伏、7か月に及んだ戦争が終結し、五稜郭は新政府に明け渡されました。

★四稜郭=五稜郭を援護する支城として、北東約3キロ離れた丘陵上に築かれました。建設を指揮したのは赤穂出身の大鳥圭介、あるいはフランス軍事教官のブリュネ大尉といわれています。2週間ほどの突貫工事で造られましたが、陣地としては脆弱だった為、箱館総攻撃の際には僅か半日ほどで陥落、脱走軍は五稜郭方面へと退却したと言われています。



榎本 武揚



土方 歳三



四陵郭：東西 100m 南北 70m



新選組・旧幕府軍が立てこもった弁天台場



24ポンドカノン砲（複製・佐賀藩）

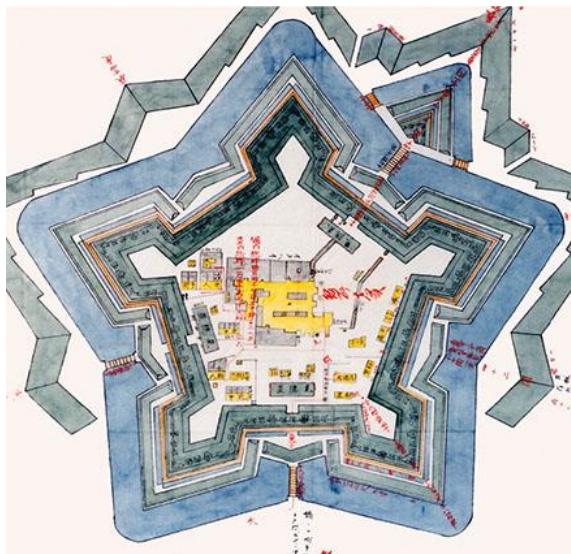
4. 復元整備

箱館戦争後の五稜郭は、明治政府兵部省(ひょうぶしょう)が管理、明治4年に開拓使本庁が札幌へ移転されることになりました。その庁舎を建設するための木材を必要とする理由によって、奉行所庁舎や付属建物の大半が解体されました。陸軍省の練兵場として利用後、大正3年からは市民の公園として開放、そして昭和 27 年(1952)北海道唯一の国指定特別史跡になりました。

五稜郭跡の保存整備は、昭和 58 年から本格的な試掘調査が実施され、その結果平成元年度までに、奉行所庁舎および付属建物 20 棟分、板塀・柵・上下水道・門などの付設遺構が確認されました。この建物跡の地下遺構と「五稜郭目論見図」等の絵図面資料を照合したところ、柱の位置などがほぼ一致する結果となりました。これを受け、箱館奉行所の復元を中心に、史跡全体の当時の景観を再現することとなり、平成 18 年から着手、郭内の園路等を含めた全整備は平成 22 年度中に完了しました。(奉行所入館料¥500)



市民の憩いの場から
昭和 27 年国指定特別史跡へ…



絵図面資料となった「五稜郭目論見図」



復元された箱館奉行所 平成 22 年完成
(入館料¥500)

C 構造

1. 稜堡(りょうほ)

稜堡とは火器の発明により中世ヨーロッパで発達した城塞の防御施設のことです。昔の城郭は石製や煉瓦製の高い城壁や塔で構成されていました。大砲が戦闘で使われるようになると、それらは敵の目標となり、また砲弾が当たるとその破片が多くの兵士を負傷させるようになりました。このため城壁は次第に低くなり、石製から土製となって、大砲を据え付けるためにその幅は広くなったと言われています。また戦闘においても、長く突き出た稜堡を利用して正面・側面からの十字砲火が可能となり、隠れ場所のない敵兵に十字砲火を浴びせることができます。



りょうほしき
星形要塞=稜堡式城郭





火砲の威力に対抗！

高さ→厚さへ

石製→土製へ

=

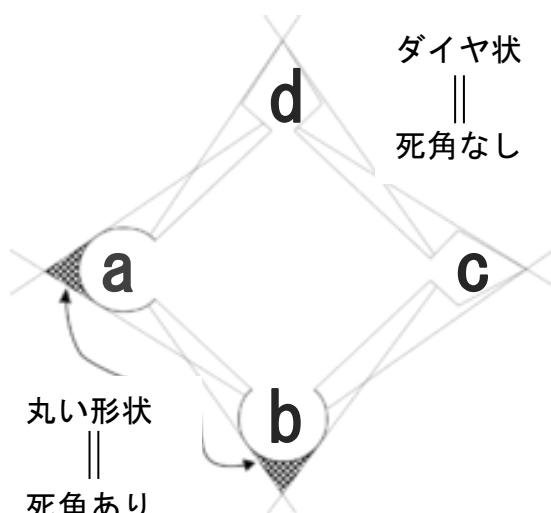
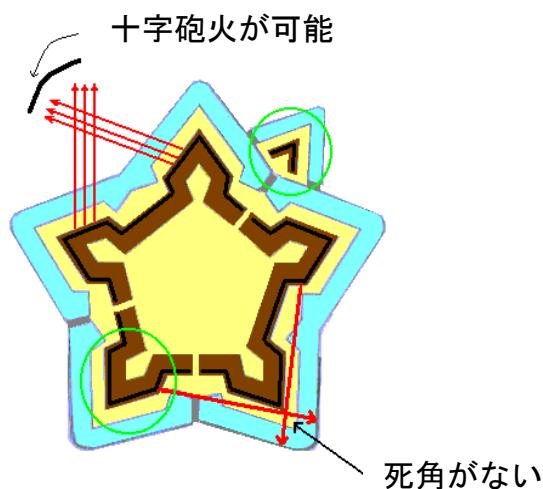
砲弾の衝撃を吸收

高さのある城塞都市から…

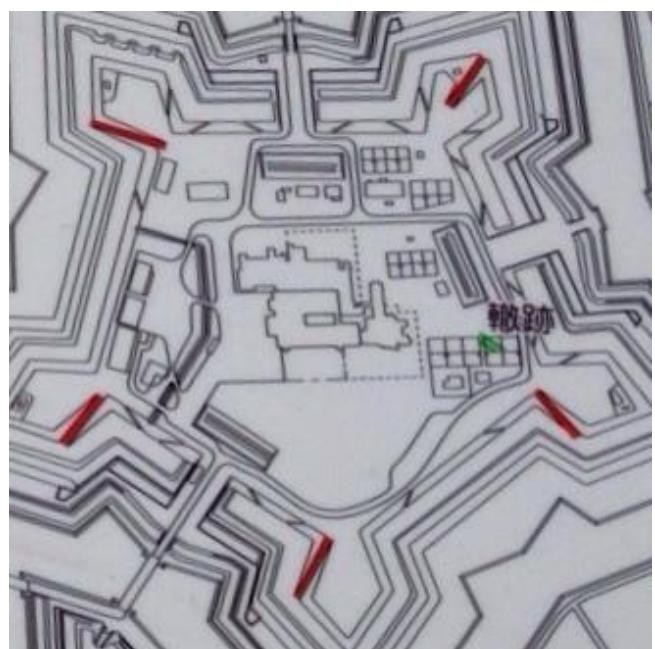


稜堡式城塞へ

りょうほしき



土壘上に大砲を運んだ坂



各稜堡に五か所

2. 半月堡(はんげつぼ)

半月堡は、五稜郭の正面入口を防御するための出墨です。当初は5か所に造る設計でしたが、資金不足の為、今のような南西側正面に1か所という形となりました。五稜郭への出入り口ですが、築造当時の絵図面では、橋が全部で5か所あったように描かれています。現在は3か所の橋がありますが、残り2か所はどうやら箱館戦争の時に外されてしまったようです。



3. 土壘・石垣

五稜郭の土壘は掘割からの揚げ土を積んだもので、土を層状に突き固める版築(はんちく)工法により造られています。蝦夷地の冬は寒く、すぐに堀などの壁が凍りついて崩れ落ちてしまいました。そこで、崩れた堀の壁や土壘を抑えるため、備前の石工、井上喜三郎が中心となり、石垣を積む工事が始まりました。石垣の上部には防御のための「刎ね出し」が迫り出しています。



見隠墨(みかくしるい)：
三か所の出入口には土壘が設けられ
郭内の様子見えなくしている

- ・長さ 44 m
- ・幅 14 m
- ・高さ 4 m



4. 建築物(土蔵・箱館奉行所)

★土蔵

明治期の解体を免れた築造当時の唯一の建物として、兵糧庫が1棟存在しています。この建物は土蔵造で、奉行所時代および箱館戦争時代に食糧庫として使用されていたと考えられています。大きさは 60坪(19 平方メートル)。

他に奉行所を中心に、二十数棟の付属建物があったことがわかっています。



築造当時の建物として唯一現存



遺構の平面展示
☆注意！駐車場では
ありません

★奉行所庁舎

明治4年(1871)の庁舎解体から140年、綿密な復元検討を重ねて平成22年に復元されました。ただし、復元された建物は総面積(約2,685平方メートル)の約3分の1(約1,000平方メートル)で、残りの約1,700平方メートル分は地面に部屋割を区画した遺構平面表示されています。工事は4年の歳月を費やし、その内部は、襖を開け放つと72畳にもなる備後本畳が敷かれた大広間、在任した奉行がしたためた掛軸、歴史発見ゾーン・映像シアター・建築復元ゾーン等の展示を順に見学出来るようになっています。



箱館奉行所庁舎古写真
太鼓櫓までの高さ16.5m



72畳備後本畳大広間



展示ゾーン

参考文献

- ・日本城郭大系
- ・日本廃城総覧
- ・日本のかたち「城」
- ・世界の要塞がよくわかる本
- ・幕末日本の城
- ・北の大地にそびえる死角なき「星形の城郭」
- ・近代日本の万能人榎本武揚 他